

混住化、個と集団の矛盾の中で、 農村集落の活性化を考える

食農環境マネジメント学コース

保木本 利行 助教 HOKIMOTO, Toshiyuki



キーワード：貨幣と人間関係、農村社会の変容、KJ法と集落点検調査

専門分野：農業経済学、農村社会学、政治経済学

連絡先Email：hokimoto@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

研究内容

今日の農村社会は、さまざまな職業や世代、立場からなる混住化社会です。そこでは、共通の地縁基盤のもと、異なる職域や時代背景そして立場のなかで育まれた、異なる価値観や利害が、互いに交錯しながら、社会関係が繰り広げられています。

この混住化状況のなかで、互いの個に引き籠もることなく、いかにして活力ある関係性を育んでいけるのか。ここに今日の農村社会が乗り越えるべき最大の課題があります。

私の研究室では、歴史学や社会学、KJ法等のバックグラウンドを生かし、主体内在的な視座と社会経済的文脈の分析を駆使しながら、地域社会のこれからを展望する研究を行っています。

<最近の研究室学生の研究テーマ等>

- (1)与えられる立場とつかみ取る立場
ー農村女性の自己実現の経緯と女性ネットワーク組織の役割
- (2)エコミュージアム活動手法を用いた新たな地域活性化取り組みとその可能性
- (3)直売所を核とした果樹経営の新たな展開
ー産直あぐりに集う果樹経営農家を事例として
- (4)安定兼業がもたらした地域農業への影響
ーTDK傘下のかほ地域を事例に
- (5)獣害対策における住民の意識改革の必要性
ー米沢市のサル害を中心に
- (6)地域創生の拠点として道の駅が果たす役割
ー山形県朝日町「りんごの森」を事例として
- (7)山形県鶴岡市の学校給食についてー学校給食合理化の中で
地産地消を中心とする食育をしていくには